

国特有の安全文化フォーラム：日本 プログラム



東京国際フォーラム
2023年12月14-15日



WANO

GLOBAL LEADERSHIP IN NUCLEAR SAFETY



NEA

NUCLEAR ENERGY AGENCY



原子力安全に関して、長年にわたり得た重要な教訓のうち、最も対応し難く、かつ伝えにくかったのは、原子力活動の安全が、技術のみならず人的・組織的側面にも影響され得るという点でした。幸いなことに今日では、安全文化のみならず人的・組織的側面に対して相当程度の注意を払うことが大事であると、世界に広く受け入れられるようになりました。原子力安全が如何に国の文化から影響を受けるのか、あるいは、組織文化の特性が如何に健全な原子力文化に影響をもたらすのかを示した福島第一原子力発電所の事故をき

かけに、原子力安全文化及び人的・組織的側面に対する注目度がさらに高まりました。

原子力機関（NEA）は、何年にもわたり、この分野に関する相当程度の作業と分析を行い、安全文化は国の文化の影響下にあるという一つの意味深い結論を得ました。言い換えるならば、組織の文化的特性の発現は、健全な安全文化に重要な影響を及ぼすということです。

このことを念頭に、経済協力開発機構原子力機関（OECD・NEA）は、世界原子力発電事業者協会（WANO）と協力して、安全文化に関する対話を促し、内省的な分析を行うための枠組みを作りました。国特有の安全文化フォーラム（CSSCF）と称するこの取り組みは、これまでにスウェーデン（2018年）、フィンランド（2019年）、カナダ（2022年）で開催されています。

CSSCF は、それぞれの国の文化の実態を知ることから始まり、その文化の強みと課題、そして規制機関や事業者の安全文化を強化するための手段について、大規模で緻密な評価を行います。日本における CSSCF がもたらす機会は、安全と日々の活動をより良くするための、あるいは、いつかは向き合わなければならない文化の特徴・特質を見つけ出し理解することです。

CSSCF にとって最も重要なのは日本の原子力界からの参加者であることは論を俟ちません。また、日本での CSSCF は NEA が企画したものであることは最大規模になったことは喜びに堪えません。CSSCF が実現したのは、NEA と WANO の取り組みに参加して下さった原子力規制委員会（NRA）、電気事業者連合会（FEPC）と原子力事業者のコミットメントによるものです。

NEA チームは、WANO 東京センターの同僚とともに、安全文化と原子力安全にかかわるすべての継続的改善を目指す日本の原子力界をサポートするような成果を上げるべく、このフォーラムに関連する多くの要素の開発、企画、調整に精力的に取り組んで参りました。すべての関係者は各々の貢献、そして高度な原子力安全を確実にするための集団としての使命を誇りに思うべきだと考えます。

経済開発協力機構 原子力機関
事務局長 ウィリアム D マグウッド 4 世



本日は国特有の安全文化フォーラム（CSSCF）にお集まりいただき誠にありがとうございます。CSSCF は今年で 4 回目となります。

WANO は 1989 年の設立以来、商業用原子力発電業界に貢献してきました。WANO の使命は、世界中の原子力発電所の 安全性と信頼性を最大限に高めることです。WANO の理念は、競争の激しい原子力業界を、原子力事業者が結束し、互いに協力することで、安全かつ信頼性の高い原子力発電所の運転を展開することです。

私たち原子力発電業界は、原子力安全という共通認識のもと、プラントの安全運転における技術面および個人々の役割に注力することで、原子力安全を重要視しています。

WANO が定義する原子力安全文化とは、人々や環境を守るために安全を何よりも優先する目標に位置付けるとする、リーダと個人々々による集団としてのコミットメントから生じる、核心となる価値観や行動であり、私たち原子力発電業界の運営の根幹をなすものです。

しかし、私たちの業界は、多種・多様な文化の中に存在しています。各国の文化的影響が重要であることを認識し、それを熟考することで世界の原子力発電所が一丸となってベストプラクティスを生み出し続けられるのです。

このフォーラムでは、さまざまな角度から安全文化について考える機会を提供します。日本の原子力発電事業者、規制当局、そしてその他の専門家との議論が行われます。さらに、さまざまな国や文化を持つ海外の原子力専門家の見解も紹介されます。

CSSCF は、原子力安全に対する理解を広げ、原子力業界における私たちの業務に日本文化が及ぼす影響をより深く認識することを目標として企画されました。WANO は、本フォーラムの計画と実施において OECD NEA と提携できたことを喜ばしく思います。ご出席いただくことに感謝申し上げるとともに、本活動に積極的にご参加いただけることを願っております。

世界原子力発電事業者協会
CEO 千種 直樹



我々原子力事業者は、福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないとの決意のもと、事故の教訓を風化させることなく自主的かつ継続的に安全性向上に取り組んでいくことが重要と考えており、これまで安全文化の醸成に取り組んできたところです。

CSSCF の、日本の文化・慣習が安全行動にどのように影響を与えているかという新たな視点での検証に加え、CSSCF-Japan での原子力事業者、規制当局（NRA）、自治体、海外の関係機関がそれぞれの立場を超えて行う意見交換によって得られる学びや気づきが、我々原子力事業者の更なる安全文化の醸成に寄与することを期待しています。

電気事業連合会 会長
池辺 和弘



OECD/NEA 及び WANO のご尽力により、国特有の安全文化フォーラムが日本で開催されることを、誠に喜ばしく存じます。

シャインの文化モデルの一番深層にある基本的な前提（basic assumption）には、国・地域の特性が必然的に影響します。そのような観点から安全文化を掘り下げるこのプログラムは、他に類を見ないものです。事業者と規制機関に加えて、諸外国や自治体の関係者が一堂に会して議論を深めることは、それぞれにとって貴重な学びの機会となるはずで

参加者の皆さんが本フォーラムの体験を各組織に持ち帰り、日々の活動に反映することで、日本の原子力安全文化の維持・育成へと繋がることを大いに期待しています。

原子力規制委員会
委員長 山中 伸介

概要

フォーラムの背景

国特有の文化的背景は原子力安全に大きく影響を与え 2011 年の福島第一原子力発電所での事故以降、さらに関心を集めてきました。組織における健全な原子力安全文化が原子力施設の効果的・持続可能な運用をもたらすとの考えから、OECD 原子力機関（NEA）と世界原子力発電事業者協会（WANO）は共同で二日間のこのフォーラムを開発し開催して参りました。日本は、スウェーデン、フィンランド、カナダに次いで 4 番目の開催国となります。参加者は、安全文化に関連する自国の文化的特質について考え、対話型のロールプレイや参加者全体での会議に参加します。

日程・開催場所

日程：2023 年 12 月 14 日（木）、15（金）

場所：東京国際フォーラム 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-5-1

メイン会場：D ブロック – Hall D5（5 階）

言語：CSSCF2023 は主に日本語で行われます。日本国外からの参加者向けに英語での同時通訳も行われます。

問合せ先

Anais Nouailles-Mayeur, PhD

(アナイス＝ヌアイ・マイヤー PhD)

CSSCF プロジェクトリード

Tel.: +33 (0) 1 73 21 29 32

Email: Anais.NOUAILLES-MAYEUR@oecd-nea.org

加藤 美紀

CSSCF 運営事務局

Tel.: +33 (0) 1 73 21 29 45

Email: Minorori.KATO@oecd-nea.org

Ms Ursula Arnal Diffu

(ウルスラ＝アーナル・ディッフ)

プロジェクト・イベントコーディネーター

Tel.: +33 (0) 1 73 21 29 31

Email: Ursula.ARNALDIFFU@oecd-nea.org

プログラム

2023年12月14日(木)	
08:30	受付
オープニング	
09:00	開会のことば *公開 - 経済協力開発機構 原子力機関(NEA) / マグウッド事務局長 - 世界原子力発電事業者協会(WANO) / 千種 CEO
09:20	ご挨拶 *公開 - 原子力規制委員会 / 山中委員長 - 中部電力株式会社 / 伊原原子力本部長
09:40	フォーラムの概要：事務連絡、スケジュール、ねらい
セッション：日本について	
09:55	ソーシャルコメンテーターによる講話 ロバート キャンベル 氏
10:40	休憩、全体写真撮影
11:00	ブレイクアウトセッション 1 グループごとに集まり、ソーシャルコメンテーターの講話をもとに日本の文化的特徴を話し合う。
12:00	振り返り 全体セッションに戻りファシリテーターたちが話し合いの結果を振り返る。
12:45	昼食

13:30	ロールプレイについての概要説明
アクト 1	
13:45	ロールプレイ: シーン 1, 2
14:05	ブレイクアウトセッション 2
15:05	振り返り
15:35	休憩 (アクト 2 に向けて準備)
アクト 2	
15:55	ロールプレイ: シーン 3, 4
16:15	ブレイクアウトセッション 3
17:15	振り返り
18:15	レセプション
20:15	一日目終了

2023年12月15日(金)

アクト3

08:20	オープニング
08:30	ロールプレイ: シーン 5, 6A&B
08:50	ブレイクアウトセッション 4
09:50	振り返り
10:20	休憩

アクト4

10:40	ロールプレイ: シーン 7, 8, 9, 10
11:00	ブレイクアウトセッション 5
12:00	振り返り
12:30	昼食

まとめセッション

13:30	地方自治体の見解
13:45	パネルディスカッション: 海外からの視点 - 英国、韓国、中国、米国
14:30	休憩
14:50	世界原子力発電事業者協会(WANO)の見解 - WANO 東京センター / キム事務局長
15:00	ホームディスカッション 参加者が各自の出身企業・機関ごとに集まり、意見交換・まとめを行う。
15:45	CSSCF オープンダイアログ – 主な収穫、振り返り、コメント
17:00	休憩

クロージング *公開

17:20	閉会のことば <ul style="list-style-type: none">- 原子力規制委員会 / 伴委員- 関西電力株式会社 / 水田原子力事業本部長- 世界原子力発電事業者協会(WANO) / 千種 CEO- 経済協力開発機構 原子力機関(NEA) / マグウッド事務局長
17:40	CSSCF 終了

会場案内

ブレイクアウトグループ及び予定	会議室名
グループ 1	G401
グループ 2	G403
グループ 3	G404
グループ 4	G405
グループ 5	G407
グループ 6	G408
グループ 7	G410
グループ 8	D503
昼食会場	G409
レセプション会場	G ブロック、7 階

謝辞

NEA は、本 CSSCF 開催にあたり、多大なるご支援を頂戴した電気事業連合会（FEPC）と原子力規制委員会（NRA）および関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

×E



The Nuclear Energy Agency (NEA) is an intergovernmental agency under the framework of the Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) headquartered in Paris, France. Its main objective is to promote international co-operation assisting member countries in maintaining and further developing the scientific, technological and legal bases required for a safe, environmentally friendly and economical use of nuclear energy for peaceful purposes.

Nuclear Energy Agency (NEA)

46, quai Alphonse Le Gallo
92100 Boulogne-Billancourt, France
Tel.: +33 (0)1 73 21 28 19
nea@oecd-nea.org www.oecd-nea.org